
電車内は人の心の中

小田 浩正

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

電車内は人の心の中

【Zコード】

Z8824Z

【作者名】

小田 浩正

【あらすじ】

僕は下校での電車内では、立たずに必ず座るようにしている。

そして、目を閉じて音楽プレイヤーでクラシックを聞く。

だが、目を開けたら……

プロローグ（前書き）

初めて書きました。
出来はわかりません。

見た方はなるべく感想よろしくお願いします。

プロローグ

僕は電車内にいた。

なぜなら下校中だからだ。

僕の通つている学校では、 線の始発駅が1番の最寄駅となるため、 学校が終わつて電車内に入れば、 席が空いていることが多い。

だから僕はドアの近くの席に座つた。

さて、 僕はこれから電車内で約10分間過ごさなければならぬ。 することができない。

本を読めばいいのではないかと思うかもしれないが、 文庫のあの厚さを見てしまつと気が引けてしまつ。

小学生のころは、 教科書に書かれた詩を見るだけで、 吐き氣がした。

マンガでもいいのではないかと思うかもしれないが、 僕はマンガを読まない主義。

だから、 無理。 いや、 別に読もつと思えば読める。

だが読まない。

しかし、 そんな僕でも高校生になれば、 中学生の『矛盾』ぐらには読めてしまつ。

…そんな冗漫話は置こといつ。

しうがないので、僕はポケットからたつた一人のアーティストしか入っていない音楽プレイヤーを取りだし、耳をイヤホンに装着。

曲はベートーベンで「悲愴」

何と云つても、今の僕に合つてしまつ曲である。

…自分でもそう思つてしまふのはなんだが、そつなのだ。

演奏時間は約20分だが、駅から自分の家まで10分なのでちうどいい配分だ。

目を閉じる。そして、鑑賞にでも漫る。

「…ふつ…ふつ…ふつ…

「…?」

なぜか、バスドラムをたたく音とともに変な音が聞こえる。

「……

「……

聞き間違ひだつたようだ。

目を開けて、周りを確認。

まばらに人はいるが、特に気になることは見つからなかつた。

もう一度田を開じて、曲の鑑賞に没ひつ。

さて、もうそろそろ一つ目の駅にたどり着くだひつ。

始発駅から自分の家の最寄駅の間に駅が二つあるが、いつも乗り込んでくる人は少ない。

なくともいいのではないかと思うのだが、朝は案外乗り込んで来て登校中、押しつぶされる。

そして、僕はいつも暇なので誰がどこのドアから入ってくるのか、統計をしている。

僕はなるべくいつも同じ時間の列車に乗りつとしている。

大抵、この時間に乗り込んでくるのは買い物帰りのおばさんだけだ。腰が曲がり、持ち歩いているおばあちゃんが大変そうに見えて、手伝おうか迷うこともあるが、なるべく気にしないようにしている。

『次は ～。 駅で～す』

かすかに耳に入った、アナウンスで僕は行動に移る。

さて、かばんの中からノートを取り出す。目を開けないで。

表紙には、『DATA NOTE』と書かれている。

決して『DEATH NOTE』ではない。

そこには強調したい。

まあ黒いけど…。

さて、最後の方からページをめくる。

もううらやましい、ノートも終わりそうだ。

結構書いた方だ。なかなか僕もやつたものだ。楽しいものではないのに。

そして、電車が減速し、停まった。

ドアが開く音がしたので、目を開ける。

「……？」

前を向いたら、そこにはまるで別の世界だった。

……なんてことはない。

前を向いたら、そこにいたのは女だった。

別に女が前にいてもおかしくはない。

女の行動を見て僕は、口を開けざる負えなかつた。

「……ふう……ふう……ふう……

なぜなら、女は……

僕の前で筋トレをしていたから。

さて、どうじょうか?

プロローグ（後書き）

暇があれば、続きを書いてこさます。

初めて書いたので、出来はわかりません。
見た方はなるべくご感想よろしくお願ひします。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8824z/>

電車内は人の心の中

2011年12月27日20時55分発行